

# いわき明星大学教養学部における 初年次教育の実践と考察

—— 1年目の取り組み内容について ——

佐藤 拓・初見康行・名取洋典・五十嵐幸一・菊池真弓  
金 世煥・佐原太一郎・高島 翠・高橋裕樹・田中美和  
土田節子・土谷幸久・中山英治・根本直人・松本麻子  
山口憲二・平塚大輔

## I. はじめに

文部科学省が平成27年8月に発表した学校基本調査の速報値によると、平成27年3月の高等学校卒業者の大学・短大進学率は54.6%と過去最高の数値であった(文部科学省, 2015a)。一方で、18歳人口の減少に伴い、大学は学生確保が困難になり、従来と比べ、学習目的、学習困難、学力、学習動機などの諸側面で、多様な学生を受け入れざるを得なくなっている(濱名, 2007)。そのような状況において各大学は、学生を大学生活に適応させるため、多種多様な初年次教育を実施している。平成26年度に行った文部科学省の調査では、690大学(約94%)が初年次教育を実施していた(文部科学省, 2015b)。

濱名(2007)によれば、初年次教育は「高校(と他大学)からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向けて大学での学問的・社会的な諸経験を“成功”させるべく、主に大学新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」と定義される。初年次教育の内容は様々であるが、①スタディ・スキル系、②スチューデント・スキル系、③オリエンテーションやガイダンス、④専門教育への導入、⑤教養ゼミや総合演習など、学び全般への導入を目的とするもの、⑥情報リテラシー、⑦自校教育、⑧キャリアデザインの8領域に分類される(山田・杉谷, 2008)。山田(2009)は、日米の大学の初年次教育の内容に関する調査データを用いて主成分分析を行い、3つの次元にまとめている。1つ目は「アカデミック・スキル」であり、レポート・論文作成方法、口頭発表の技法、読解・文献講読の方法、論理的思考力や問題発見・解決能力、図書館の利用・文献探索方法などから構成されている。2つ目は「スチューデント・ソーシャルスキル」であり、情報収集や資料整理の方法とノートの取り方、職業生活や進路選択に対する動機づけ、時間管理や学習習慣の確立、受講態度や礼儀・マナーなどから構成されている。3つ目は「内面的アイデンティティ」であり、チームワークを通じての協調性、大学への帰属意識の醸成、自信・自己肯定感の醸成などから構成されており、大学への学生の適応を支える情動的側面だと考えられている。

初年次教育の効果として、まず中退率を抑え、在籍継続率を高めることが考えられる。明星大学では、学生生活実態調査で「一度でも離籍を考えたことがある」と答えた学生の割合が、初年

次教育科目である「自立と体験1」の開講前（2008年度）の結果と比較すると、開講後（2011年度）には1割減少した（ベネッセ教育総合研究所，2013）。また、嘉悦大学では、初年次教育の改革をはじめとした大学改革を行った結果、2009年の春学期中退者が減少する効果がみられている（杉田，2010）。2つ目の効果としては、学習面の効果が考えられる。関西国際大学では、初年次教育を導入してからGPAの平均が上昇した（濱名，2008）。また、Pedgett, Keup, & Pascarella（2013）は、縦断データを用いて初年次教育が学生の認知欲求を高めることを報告している。

以上のように、大学をとりまく環境の変化、およびその効果から多くの大学で初年次教育が導入されるようになってきている。いわき明星大学でも、教養学部の前身となる人文学部では各学科独自に初年次教育が実施されていた。教養学部では、2015年の学部改組を機に初年次教育の内容を一新し、新たに「フレッシュャーズセミナー1・2」として初年次教育を再導入した。本稿では、いわき明星大学の現状と課題を整理するとともに、フレッシュャーズセミナーの概要を報告する。また、フレッシュャーズセミナー1（前期）を実施した結果により明らかになった成果と課題についても考察する。

## II. いわき明星大学における現状と課題

### 1. 学生数の推移から推計する中途退学率

本学のホームページにて公開されている在籍学生数から中途退学率を推計した。学生の減少数を各年度の学生数で割って算出したために、実際の中途退学率とは異なる可能性がある点には注意を要する。

その結果、平成21年（2009年）から平成22年（2010年）では3%台であったが、平成23年（2011年）には5%を超えた。以後、平成24年（2012年）から平成26年（2014年）では、4～5%台が維持されてしまっている。このような状況を受けて、平成25年（2013年）には、退学防止対策のための退学者対策小委員会が発足し、様々な対策案について検討され、いくつかの試み（例えば、学生が自由に大学に意見を投書できる目安箱「アドちゃんボックス」の設置）が行われている。

### 2. 退学者対策として教育が果たす役割

国・公・私立大学、公・私立短期大学、高等専門学校1,163校が回答した調査によって報告されている平成24年度の中途退学率は、2.65%である（文部科学省，2014）。平成19年（2007年）度比で0.24ポイント増とされる。算出方法の違いがあるものの、全国的な傾向と比べていわき明星大学の中途退学率が低いとはいえない。平成23年に退学率が増加した理由は、東日本大震災の影響と考えるのが妥当であろう。それに続く東京電力福島第一原発の事故の影響という特殊な事情により、退学率が低下せず、一定の値にとどまっている可能性はある。しかしながら、外的な環境の影響ばかりに原因を求めているだけでは、退学率の低下にはつながらない。

学部別に退学率を算出してみると、平成21年では科学技術学部と人文学部が3%台なのに対し、薬学部では2%弱であった。平成22年では3学部すべてで3%であったが、全学では5%

台へと増加がみられた平成23年においても、薬学部では4%台と他の2学部よりは相対的に低い値であった。この薬学部のみ退学率が低いという傾向は、平成24年以降も続いている。平成19年に設置された薬学部と他の2つの学部では学生の学年構成が違うことを考慮する必要はある。しかしながら、それでも「薬剤師国家試験合格」という極めて明確な入学目的の達成のために「大学に残り続けること」を学生(ないしは保護者等)が求めるため、退学率が相対的に低いと考えることもできる。つまり、「大学に残り続けることの意味・メリット」が学生に明確に意識されれば、退学を防ぐことができる可能性がある。ただし、「国家試験合格」のような学生全員が目指す目標を、教養学部で設定することは難しい。各々が将来に向けた明確な目標を設定することができるスキルを身につける教育を行うことの方が現実的である。

退学率の低下につながる取り組みが求められる。その際、退学者対策小委員会を中心とした授業外での取り組みに加え、授業内での取り組みにより退学率を低下させることを考える必要がある。特に、教育プログラムにより大学への所属感、適応感を高めることが、退学者減少へとつながる効果を発揮する余地はあると考えられる。

### Ⅲ. 「フレッシュャーズセミナー」の内容

#### 1. 概要・目的

「フレッシュャーズセミナー1・2」は、本学教養学部の学生に提供される初年次教育プログラムである。1年前期と後期に必修科目として開講される講義であり、シラバスに記載される教育目標は、以下の3点である。

- ①高校と大学の違いを理解し、自律的な学習習慣・マナー・自己管理能力を身に付けること
- ②大学で学ぶための基本的なスタディ・スキル(図書館の利用法・レポートの書き方、日本語リテラシーなど)を身に付け、専門科目への橋渡しを行うこと
- ③グループワーク等を通して、大学内に豊かな人間関係を形成すること

上記の教育目標を達成することによって大学生活を円滑にスタートさせ、就学意欲の向上、早期退学者の防止を図ることがフレッシュャーズセミナーの最終目標である。

#### 2. 運営体制・特色

##### (1) 少人数制クラスでの実施

フレッシュャーズセミナーでは、本年度、履修学生90名(新入生89名+過年度生1名)を4クラス(1クラス22~23名)に分けて講義を行っている。これは明星学苑の教育理念である「手塩にかける教育」を実践するためであり、少人数制クラスに分けることによって1人1人の学生に対してきめ細かなサポートを提供することが目的である。

## (2) 1クラスに対して教員3名、スチューデント・アシスタント1名の配置

フレッシュャーズセミナーの運営体制における大きな特徴は、教員の人員配置にある。本科目を担当する教員は全部で16名（専任教員14名、特任教員2名）であり、職位、専門分野に関わらず、多様な分野から教員が参加をしている。専門分野は経営学、日本文学、心理学、社会学、体育学、図書館学、芸術学など多岐に渡り、教育内容の充実と多様性が担保されている。

フレッシュャーズセミナーでは上記16名の内、常勤で講義を行う教員12名を4つのグループに分け、1クラスに対して3名の教員を配置した。学生に対するきめ細かい対応を実現することが目的であるが、教養学部が初年度であること、アクティブラーニングを主体とした講義であることなどを総合的に勘案した結果である。また、教室のセッティング、講義資料の準備・配布等のサポートのため、各クラスに1名のスチューデント・アシスタント（SA：2年生または3年生）を配置した。上級生と触れ合うことによって、大学内に学年を越えた「縦のつながり」を形成することもSAを配置する大きな目的の1つとなっている。

## (3) チューター面談を全学生に実施

フレッシュャーズセミナーに関連した講義外の活動として特徴的なのは、履修学生全員に対するチューター面談である。各教員は担当クラスの学生チューターとして各学期に一回面談をしており、少なくとも全ての学生が年間2回は教員と学生生活について相談する機会が設けられている。相談内容は自由であるが、大学内の人間関係、学修状況、課外活動、経済状況など、相談内容は多岐に渡る。このようなチューター面談を定期的実施することによって教員は学生の状況把握に努め、特別な対応が必要な学生については、教務学生支援センターや保健管理センターと連携を図っている。また、面談記録を学内システムに入力することによって、進級した後も、新たに当該学生に関わる教職員が学生の状況を把握できるようにしている。

## (4) 年間60コマの実施

フレッシュャーズセミナーのもう1つの特徴は、講義時間（コマ数）である。フレッシュャーズセミナーでは毎週2コマ連続の講義が1つの授業としてカウントされており、前期15回（30コマ）、後期15回（30コマ）の年間30回（60コマ）分の講義が実施される。講義は毎週火曜日の1限、2限で実施されており、朝の9時から12時10分までが講義時間となる。講義時間の合計は90時間であるが、特別講義などの時間を含めると、年間約100時間程度を初年次教育に費やしている計算となる。

## (5) アクティブラーニング形式での講義

フレッシュャーズセミナーの講義は、原則アクティブラーニングの形式で行われている。一般的な座学形式の講義はなく、講義のはじめにグループ（4～6名程度）を複数作り、各回の講義テーマに関する課題を与え、グループ内で討議し、発表を行う、というサイクルが基本となっている。講義を聞くだけでなく、自分の考えを共有し、多様な価値観・考え方に触れ、グループで結論を導き出す経験を繰り返すことによって、座学だけでは学べない豊かな学習体験を促進することが

目的となっている。

### (6) 共通の教本・教材

講義の内容は全クラス共通で行われる。そのため、事前に講義内容、講義スケジュール等を示した教本を作成し、各教員に事前配布をしている。本年度は初年度ということもあり、前期30コマ分の教本を2015年2月までに作成し、後期30コマ分は2015年8月までに作成した。教本作成を2回に分けることによって、担当教員の負担を減らしつつ、前期での経験を後期の教本作成に活かせるように配慮した。また、教本の内容が適切に理解されるよう、毎週講義開始の30分前(8時30分)から朝会を開き、教本を作成した教員が、当日の講義の目的、時間配分、注意点などを再度レクチャーしている。このような事前の教本確認と当日のレクチャーにより、クラスごとの学習内容の偏りを防ぎ、全てのクラスにおいて共通の学習を行うことが可能となっている。

## 3. プログラム内容

フレッシュャーズセミナー1・2の講義概要とスケジュールは以下の通りである(フレッシュャーズセミナースケジュール表:付録1を参照)。本項では、プログラムの概要と特色について述べていく。

### プログラムの概要・特色

フレッシュャーズセミナーのプログラム内容については、目的、導入背景により、大きく以下の4つに分けられる。

#### (1) スタートアップ研修

フレッシュャーズセミナー最初の講義は、入学前に行われる「スタートアップ研修」である。この研修は入学前に行われており、本年度は4月2日、3日の2日間に渡って行われた。目的は大学での学習に触れること、新入生同士の人間関係形成をサポートすることによって、入学前の不安解消や大学生としての意識を醸成することにある。本年度は1日目を外部の研修会社に委託し、2日目はフレッシュャーズセミナー担当教員が行った。研修プログラムのコンセプトは「コミュニケーション」であり、1対1でのコミュニケーション、1対複数でのコミュニケーション、グループでのコンセンサスゲームなど、多数のアクティビティを行った。これらのワークを通して、近年不得手な学生が増えていると言われているコミュニケーション能力の向上を図り、学生同士が入学前に知り合う機会を創出した。事後に行われたアンケートの結果を見ると、「入学前に不安が解消された」、「新しい友人が出来た」、「コミュニケーションのコツが少し分かった気がする」などの前向きなコメントが多く得られた。

#### (2) 明星大学「自立と体験1」の導入

前期のフレッシュャーズセミナーにおいて最も大きな特徴は、兄弟校である明星大学の「自立と

体験1」のプログラムを実施している点である。「自立と体験1」は東京日野市にある明星大学において提供されている初年次教育プログラムであり、近年、その成果が大きく注目されている。平成22年からスタートし、本年で5年目を迎えるプログラムであり、学生の就学意欲の向上や在籍率の向上などに大きく寄与していることが報告されている。

本学では、教養学部の初年次教育スタートにあたり、明星教育センター（「自立と体験1」を主管している組織）にコンタクトを取り、プログラム内容の導入や教員の研修等について多大な協力を頂いた。具体的には、「自立と体験1」の教案・教材の提供、事前勉強会における講師の派遣、明星大学での研修実施など、様々な協力を得ることによって、本学初年次教育のスタートに尽力して頂いている。

「自立と体験1」は全15回のプログラムとなっているため、今年度は前期30コマの内、約半分を「自立と体験1」の内容で実施している。また、自校教育や図書館の利用方法など、本学特有の事情がある場合を除いては、内容を変更せずに実施した。「自立と体験1」の具体的なプログラム内容については、表1の通りである。

「自立と体験1」の特徴は「学び方を学ぶ」という点であり、大学の講義を理解するための基本的なスタディ・スキル（ノートの取り方、聴き方、グループワークの方法）や、大学生としての在り方（相手を尊重する、ルールやマナーを守る、など）を学ぶ点にある。上記の内容は本学の初年次教育においても極めて重要な部分であるため、前期フレッシュャーズセミナーの中核プログラムとして「自立と体験1」の内容を実施した。

表1 明星大学「自立と体験1」のプログラム内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	新しい環境で他者と出会う
第3回	大学での学びを考える
第4回	聴いて相手を理解する(1)
第5回	聴いて相手を理解する(2)
第6回	明星大学を知る
第7回	明星大学を紹介する
第8回	図書館に触れる
第9回	大学職員に取材する
第10回	自分や相手の大切さを知る
第11回	ルールとマナーを考える
第12回	卒業生から学ぶ
第13回	仕事と自分について考える
第14回	これからの大学生活を描く
第15回	未来の自分へのメッセージ

※明星大学明星教育センター「自立と体験1」4年間の実践と成果より作成

### (3) いわき明星大学独自のプログラム

前述の内容以外に導入したプログラムが、いわき明星大学独自の初年次教育プログラムである。具体的には、日本語リテラシー、メンタルヘルス、ロジカルシンキング、食育、大学生活の目標設定、キャリア教育である。本内容はフレッシュャーズセミナーが始まる前年の2014年度に各担当教員から本学の初年次教育に必要な教育内容の提案を募り、採用されたプログラムである。上記の内容が採用された背景には、本学学生の基礎学力の不足、早期退学の防止、生活習慣の乱れ等を改善していく意図があった。プログラム内容の議論と審議はキャリア教育企画・運営室（本学キャリア教育、初年次教育全般の内容を検討するために組織された全学横断の委員会）を通して行われ、最終的に上記内容が採択された。講義の具体的な内容については、プログラムを提案した教員が教本を作成しており、その内容が担当教員全員に共有された。

### (4) メジャー選択のためのテーマ別演習

フレッシュャーズセミナー後期に実施されるテーマ別演習は、本学教養学部の大きな特徴であるメジャー選択（専門分野の選択）を円滑に進めるための総合演習である。本学教養学部では1年次の最後に自分の専門分野を「地域と社会」、「心理と人間行動」、「国際コミュニケーション」の3つから選択することになっており、2年次以降は各人のメジャー選択に沿った講義を履修していく。本テーマ別演習はメジャー選択を円滑に進めていくための講義であり、各メジャーと関連のあるテーマについて総合演習（4コマ×3種類）を行うことによって、それぞれのメジャーに対する理解を深め、専門分野への橋渡しをする役割を担っている。

以上が本学教養学部における初年次教育の概要と特色であり、上記の内容を実施することによって、学生の就学意欲の向上、早期退学の防止を目的とした講義運営を行った。前期に実施された「フレッシュャーズセミナー1」の各回の出席率の結果は、表2の通りである。前期15回を通しての平均出席率は93.4%であり、高い数値を示した。

次に、学生を対象に行った授業改善アンケートの結果から本授業の成果を検討する。

表2 「フレッシュャーズセミナー1」の出席率

回数	日程	出席率
第1回	4月2日	100.0%
第2回	4月3日	98.9%
第3回	4月7日	97.8%
第4回	4月14日	97.8%
第5回	4月21日	91.1%
第6回	4月28日	96.7%
第7回	5月12日	90.0%
第8回	5月19日	94.4%
第9回	5月26日	90.0%
第10回	6月9日	86.7%
第11回	6月16日	95.6%
第12回	6月23日	93.3%
第13回	7月7日	84.4%
第14回	7月14日	93.3%
第15回	7月21日	91.1%

## IV 授業改善アンケートの結果を用いた検討

### 1. 目的

いわき明星大学全学FD・SD委員会が実施する授業改善アンケートの結果を用いて、前期に実施された「フレッシュャーズセミナー1」における実践の特徴を検討した。

### 2. 方法

#### (1) 調査対象者と手続き

同授業の最終回に参加した83名（出席率92.2%）が調査の対象になった。最終回は4クラス並行で授業が行われていたため、調査はクラス別に無記名で実施された。また、講義担当者の影響を排除するため、回答中に講義担当者は退室し、SA（学生）がアンケートの回収を行った。

#### (2) 調査内容

授業改善アンケートの項目は、いわき明星大学全学FD・SD委員会が作成したものであり、14項目の評定項目と、3項目の自由記述から構成されている。評定項目は、説明のわかりやすさ、教材の有効度、熱意といった“教員の教授法”に関する7項目、授業の理解度、学習意欲等の向上といった“学生に対する影響力”に関する3項目、総合的な満足度を測定する1項目、授業の予習・復習時間を測定する1項目、安全教育に関する1項目であった（表3）。予習・復習時間の項目以外は、調査対象者に5件法（1 = 全くそう思わない ~ 5 = 強くそう思う）で評定し

表3 「フレッシュャーズセミナー1」と「その他の教養学部の授業」に対する授業改善アンケートの結果

項目	フレッシュャーズ セミナー1		その他の教養学部 の授業 <sup>1)</sup> (n=18)	
	M	SD	M	SD
1. 教員の声は、聞き取りやすかったですか。	4.67	0.50	4.27	0.45
2. 教員の説明は、わかりやすかったですか。	4.62	0.51	4.01	0.52
3. 教員は、クラス全体の理解度を確かめていましたか。	4.51	0.61	3.95	0.51
4. 教員は、授業の準備を十分行っていましたか。	4.59	0.56	4.19	0.41
5. 教員の板書、視聴覚教材（パワーポイント、DVDなど）、配布資料（授業プリントなど）は、授業の内容の理解に役立ちましたか。	4.63	0.53	4.01	0.49
6. 授業に対する教員の熱意を感じましたか。	4.57	0.58	4.08	0.48
7. 授業の進行速度は、適切でしたか。	4.44	0.65	4.01	0.36
8. 授業の内容は、理解できましたか。	4.41	0.66	3.88	0.51
9. 授業を受けて、学習意欲が高まりましたか。	4.13	0.93	3.80	0.49
10. 授業を受けて、考え方、能力、知識、技術などの向上がありましたか。	4.21	0.90	3.84	0.42
11. 総合的に判断して、この授業に満足していますか。	4.40	0.86	3.90	0.52
12. あなたは授業に意欲的に取り組みましたか。	4.11	0.95	3.79	0.43
13. この授業科目に当てた予習・復習の勉強時間は週平均どれくらいですか。（1：0-30分 2：1時間 3：2-3時間 4：4-5時間 5：6時間以上）	1.37	0.79	1.50	0.31

注)「フレッシュャーズセミナー1」の標準偏差は、評定者の評定値から算出されている。一方、その他の科目の平均値と標準偏差は各科目の評定平均から算出している。また、「フレッシュャーズセミナー1」の数値は欠損値（各項目で最大2名分）を除いて算出された。

てもらった。さらに、講義について良いと思う点、改善してほしい点、その他について、自由記述形式で回答を求めた。

### 3. 結果と考察

#### (1) 量的データの分析

「フレッシュャーズセミナー1」に対する受講生の評定の平均値および標準偏差を表3に示した。また、各科目の評定平均値を用いて、「フレッシュャーズセミナー1」以外の教養学部生を対象とした計18の授業<sup>1)</sup>の平均値と標準偏差を算出し、それを参考値として表3に付記した。「フレッシュャーズセミナー1」については、ほとんどの項目に対する評定平均値が4を超えていた。また、総合的な満足度も4.40 ( $SD=0.86$ )と高い数値を示した。

初年次教育の問題として担当教員の熱意や指導力の格差が指摘されているが(杉谷, 2006)、熱意や指導力に関する項目(項目1~7)の標準偏差を参照すると、それとは関連のない項目の標準偏差と同程度か、それ以下の数値であった。以上のことから、教員の熱意や指導力がクラス間で大きくばらついていた可能性は低く、教本を予め用意し、教員間で指導内容を揃えたことが肯定的に作用した可能性がある。

#### (2) 自由記述の分析

1) 良いと思う点 自由記述の得られた53名分の回答をSPSS Text Analytics for Survey 4.01を用いて分析した。各自由記述を単語、句などに分解し、キーワードの抽出を行った。次に、抽出されたキーワードの関連するものをまとめ、カテゴリに再分類した(表4)。その結果、各カ

表4 抽出された「フレッシュャーズセミナー1」の良いと思う内容のカテゴリと頻度

カテゴリ	含まれる内容	頻度	相対頻度(%)
相互作用	コミュニケーション、話す、など	19	23.2
可能表現	できる、とれる	15	18.3
認知作用	思う、考える、わかる、など	12	14.6
仲間	みんな、学生、メンバー、など	11	13.4
多様性	いろいろ、いろいろな人、など	10	12.2
授業	授業、講義、授業全体	9	11.0
理解のしやすさ	わかりやすい、受けやすい、など	8	9.8
学修する	学ぶ、身につく、など	8	9.8
有用さ	役立つ、ためになる、など	8	9.8
スタディ・スキル	知識、考え方、など	8	9.8
豊富さ	多い、たくさん、よく、など	8	9.8
グループワーク	グループワーク、グループ活動、など	7	8.5
将来	社会、社会人、進路、将来のため	6	7.3
向上する	高まる、深めること、広げること、など	5	6.1
人間	人間、人、など	5	6.1
教員	先生、教員、教員の方	5	6.1
楽しさ	楽しい、楽しかった	5	6.1
良さ	良い	5	6.1
自己	自分	5	6.1
記述なし	無回答	29	35.3

注) 出現頻度が5未満のものは省略した。

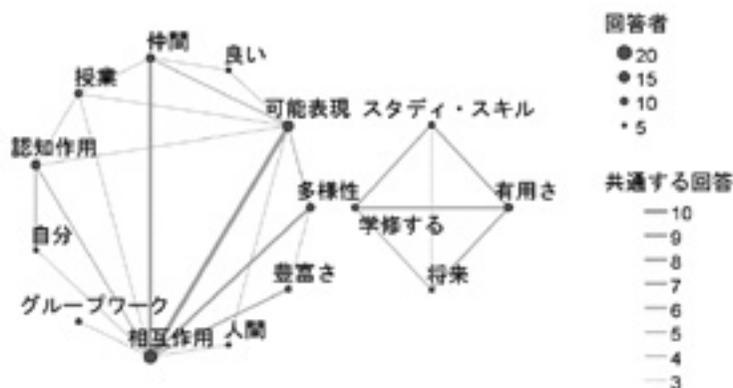


図1 「フレッシュャーズセミナー1」の良いと思う点に関するカテゴリの共起性  
 注) カテゴリ頻度が5、共通回答が3以上のものに限定して表示した。

カテゴリの頻度としては、「相互作用」(n=19)、「可能表現」(n=15)、「認知作用」(n=12)、「仲間」(n=11)、「多様性」(n=10)の頻度が相対的に高かった。次に、出現頻度が5以上のコーディング・ワードを対象にしてカテゴリ Web による図示を行い、カテゴリ間の共起性を検討した(図1)。その結果、「相互作用」を中心とした共起関係と「スタディ・スキル」に関連した共起関係の2種類の共起関係が示された。「相互作用」を中心とした共起関係は、「授業やグループワークを通して、様々な仲間と相互作用ができる」と解釈することが可能であった。また、「スタディ・スキル」を中心とした共起関係は、「知識や考え方、発表の仕方などのスタディ・スキルを身につけることが将来的に役に立つ」と解釈することが可能であった。学生は「フレッシュャーズセミナー1」の良い点をこの2点に見出していると考えられた。この2点は、フレッシュャーズセミナーの教育目標とも合致している。

2) 改善してほしい点 この問いに対する自由記述は少なく、17件(20.7%)のみであった。そのため、テキストマイニングを行わずにカテゴリ・コーディングによる分析を行った。まず、第1著者がデータに基づき5つのカテゴリを決定し、分類を行った(表5)。次に、研究目的を知らない補助者がこれらの記述を分類したところ、1つの記述を除き分類は一致した。一致しなかった記述は、「フレッシュャーズセミナー1」の担当者以外は理解が難しい記述であったため、その項目を別の担当者に判断させたところ、第1著者の判断と合致した。以上のことから、当初

表5 「フレッシュャーズセミナー1」の改善してほしい点に関するカテゴリと頻度

カテゴリ	内容例	頻度	相対頻度(%)
グループ分けの不備	同じクラスなのにまだグループが一緒になってない人がいる	7	8.5
授業の進行速度	進行を早く(遅く)してほしい	4	4.9
授業開始前の準備の煩わしさ	毎朝の準備(グループ形式の机の配置)が大変な点	3	3.7
まわりの騒がしさ	うるさい人が多かった	2	2.4
負担の偏り	発表する人に偏りがある気がする	1	1.2
記述なし	無回答	65	79.2

の分類を最終的な分類とした。

最も頻度が多かったカテゴリは、「グループ分けの不備」( $n=7$ )であった。学生同士の相性を考慮してほしいという指摘以外に、クラス内で同じグループになっていない人がいることに対する指摘があった。良い点と組み合わせて考えると、学生は多様な人との交流を希望していると解釈することもできる。なお、シラバス作成時に危惧されていた授業時間の長さや負担の多さについての指摘はなかった。

## V まとめ

本稿では、いわき明星大学における現状と課題を概観し、その対策として実施された初年次教育プログラムである「フレッシュャーズセミナー」について報告を行った。前期の「フレッシュャーズセミナー1」の最終回に行われた授業改善アンケートからは、学生が本授業を概ね有効なものとして捉えていると示唆された。フレッシュャーズセミナーの特色として挙げた中でも、毎週2コマ連続の授業が前期・後期15回(30コマ)ずつ設けられていることは、大きな特徴であった。アンケートの自由記述や出席率を考慮すると、前期の段階においては、時間数の多さによって学生に授業疲れが生じている可能性は低いと考えられた。つまり、プログラムの時間数を増やすことは、必ずしも質の低下につながるわけではないと考えられる。ただし、この点は、後期のプログラムが終了した時点で、再検討する必要があるだろう。

本稿では、フレッシュャーズセミナーの効果を学生の授業評価から検討したが、プログラムを適切に評価するためにはさまざまな観点からの評価が必要である。まず、本プログラムが学生の大学適応にどのような影響を及ぼしたかについては、1年次終了時、およびそれ以降の離籍率を検討する必要がある。また、リテラシー、コンピテンシーを含むジェネリック・スキルの評価、GPAといった客観的指標の検討も必要になるだろう。さらに、認知欲求のような学生の主体的な学びに関する変数も検討が必要である。以上の点については、今後の検討課題としたい。

## 謝辞

本学教養学部の初年次教育実施にあたり、多大なご協力を頂いた明星大学明星教育センターのみなさまに対して、この場を借りて厚く御礼申し上げます。特に鈴木浩子先生、百木英明先生には、教員の研修実施や来校しての勉強会など多大なご協力を頂きました。また、御厨まり子先生、渡辺貴司先生には、教材の提供・手配等に格別のご配慮を頂きました。明星教育センターみなさまに対して深く感謝致します。最後に、毎週の資料準備等、フレッシュャーズセミナーを陰ながら支えてくれた本学教務学生支援センター坪井宏様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

## 注

- 1) 教養学部の学生に加えて他学部の学生が受講することを前提とした一般教養科目は含めなかった。また、外国語教育科目等は、学生を複数のクラスに分割して授業が開講されたため、授業改善アンケートの数値も授業ごとに集計されたものを用いた。なお、対象とした科目に教養学部の学生以外に人文学部(改組前の学部)の学生も少数受講していた。そのため、データの一部には教養学部の学生以外のものが含まれている。

## 引用文献

- ベネッセ教育総合研究所 (2013). 学ぶ意欲を引き出す教育改革事例 VIEW21大学版, 2012年度 特別号 Vol. 4, 28-30.
- 濱名篤 (2007). 日本における初年次教育の位置づけと効果 カレッジマネジメント, 145, 5-9.
- 明星大学明星教育センター全学初年次教育に関する委員会 (2014). 「自立と体験1」4年間の実践と成果 1-40.
- 文部科学省 (2014). 学生の中途退学や休学等の状況について 文部科学省 <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/10/\\_icsFiles/afiedfile/2014/10/08/1352425\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afiedfile/2014/10/08/1352425_01.pdf)> (2015年10月25日)
- 文部科学省 (2015a). 学校基本調査—平成27年度(速報)結果の概要— 文部科学省 <[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afiedfile/2015/08/18/1360722\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afiedfile/2015/08/18/1360722_02_1.pdf)> (2015年11月7日)
- 文部科学省 (2015b). 平成25年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要) 文部科学省 <[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/04052801/\\_icsFiles/afiedfile/2015/10/21/1361916\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afiedfile/2015/10/21/1361916_1.pdf)> (2015年11月7日)
- Padgett, R. D., Keup, J. R., & Pascarella, E. T. (2013). The impact of first-year seminars on college students' life-long learning orientations. *Journal of Student Affairs Research and Practice*, 50, 133-151.
- 杉田一真 (2010). 初年次教育をテコに大学改革を推進: 嘉悦大学(経営経済学部)河合塾(編著) 初年次教育でなぜ学生が成長するのか—全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂 pp. 137-153.
- 杉谷祐美子 (2006). 濱名篤・川嶋太津夫(編) 初年次教育 歴史・理論・実践と世界の動向 丸善出版 pp. 69-79.
- 山田礼子 (2009). 大学における初年次教育の展開—アメリカと日本 *Journal of Quality Education*, 2, 157-174.
- 山田礼子・杉谷祐美子 (2008). 初年次教育の「今」を考える—2001年調査と2007年調査の比較を手がかりに— 大学教育学会誌, 30, 83-87.

(さとう たく/心理学)  
(はつみ やすゆき/経営学・キャリア教育)  
(なとり ひろのり/心理学)  
(いがらし こういち/体育学)  
(きくち まゆみ/社会学)  
(きむ せふあん/マーケティング)  
(さはら たいちろう/流通・マーケティング)  
(たかしま みどり/心理学)  
(たかはし ひろき/経営学)  
(たなか みわ/キャリア教育)  
(つちだ せつこ/図書館学)  
(つちや ゆきひさ/経営学)  
(なかやま えいじ/大阪産業大学)  
(ねもと なおんど/音楽・芸術学)  
(まつもと あさこ/文学)  
(やまぐち けんじ/経営学・キャリア教育)  
(ひらつか だいすけ/経営学・キャリア教育)

## 付録1 フレッシュヤーズセミナースケジュール

### 前期

#### 【コミュニケーション力育成】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
2日間で 実施予定	4月2日(木) 4月3日(金)	1コマ	基礎人間力 基礎学修力		<b>スタートアップ研修</b> 研修のコンセプトは「コミュニケーション」 多様なワークを通して大学の学習に触れ、新入生同士の仲を深める ※1日目は研修企業の実施 ※2日目は教養学部教員主導で行う ※教養学部は2日目に校歌の練習等で一休感を高める ※教養学部は2日目に「自立と体験1」の第1回目を実施	1日目 研修会社 プログラム  2日目 教養学部(教員主導) 自立と体験1(第1回)
		2コマ				
		3コマ				
		4コマ				
		5コマ				
		6コマ				

※基礎人間力 → 友人作り、ルール・マナー、食育、メンタルヘルスなど、「学生生活全般」を充実・促進させることを目的とした基礎教育  
 ※基礎学修力 → 日本語リテラシー、グループワーク、ロジカルシンキングなど、「学修生活全般」を充実・促進させることを目的とした基礎教育

#### 【基礎学修力・人間力育成】、【自校教育】、【イベント企画】、【目標設定】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
第1回	4月7日(火)	7コマ	基礎人間力	新しい環境で他者と出会う	・共に学ぶ学生同士交流する ・いわき明星大学でやってみたいことを考える	自立と体験1(第2回)
		8コマ	基礎学修力	アセスメントテスト	・アセスメントテストの実施	アセスメントテスト
第2回	4月14日(火)	9コマ	基礎学修力	大学での学びを考える	・高校と大学の違いを理解する ・ノートやメモの取り方について学ぶ	自立と体験1(第3回)
		10コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第1回：図書館ツアー ・ビブリオバトル①(話す能力の育成)	自立と体験1(第8回) 新書(ビブリオバトル)
第3回	4月21日(火)	11コマ	基礎学修力	聴いて相手を理解する(1)	・「聴く」ためのポイント、良い聴き方を学ぶ ・相手を理解するための質問の仕方を学ぶ	自立と体験1(第4回)
		12コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第2回：図書館ツアー ・ビブリオバトル②(話す能力の育成)	自立と体験1(第8回) 新書(ビブリオバトル)
第4回	4月28日(火)	13コマ	基礎学修力	聴いて相手を理解する(2)	・お互いの意見を活かしながらまとめる体験をする ・情報をもとに、グループメンバーで協力して話し合う	自立と体験1(第5回)
		14コマ	基礎学修力	図書館利用法・情報収集法 日本語リテラシー「話す」能力の育成	・第3回：図書館ツアー ・ビブリオバトル③(話す能力の育成)	自立と体験1(第8回) 新書(ビブリオバトル)
第5回	5月12日(火)	15コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る(1)	・グループワークの目的・目標共有、班決め ・学長からの話、大学紹介DVDなど(合同授業)	自立と体験1 (第6・7・9回を包含)
		16コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る(2)	・学内フィールドワーク(1組・2組) ・先輩からの話、など(3組・4組)	自立と体験1 (第6・7・9回を包含)
第6回	5月19日(火)	17コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る(3)	・学内フィールドワーク(3組・4組) ・先輩からの話、など(1組・2組)	自立と体験1 (第6・7・9回を包含)
		18コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る(4)	・模造紙の作成 ・プレゼンの練習とクラス内発表	自立と体験1 (第6・7・9回を包含)
第7回	5月26日(火)	19コマ	基礎学修力	いわき明星大学を知る(5)	・各クラス混合で全体発表(1クラス4班) ・振り返りとフィードバック	自立と体験1 (第6・7・9回を包含)
		20コマ	基礎人間力	メンタルヘルスリテラシー	・大学生活の悩みとその対処について考える ・退学学生対策	大学生生活トラブルDVDなど
第8回	6月2日(火)			スタートアップ研修へ振り替え		
第9回	6月9日(火)	21コマ	基礎人間力	演習(1)	食育講座(1) ・100円朝食をとった後、学食業者担当者より講義	オリジナル教材
		22コマ	基礎人間力	演習(2)	食育講座(2) ・ダイエットに絡めた「食育」の講義	オリジナル教材
第10回	6月16日(火)	23コマ	基礎学修力	日本語リテラシー(1) 「読む」能力の育成	・新聞を知る、新聞を読む 「読む」能力の育成	オリジナル教材
		24コマ	基礎学修力	日本語リテラシー(2) 「調査・分析」能力の育成	・興味のある人物について、自分で調査し、まとめる ・新聞記事の作成	文献は学生が選択 オリジナル教材
第11回	6月23日(火)	25コマ	基礎学修力	日本語リテラシー(2) 「調査・分析」能力の育成	・レポート作成の際に必要な、引用の基礎を学ぶ ・ネットから情報を得ることの利点と問題点を理解する	オリジナル教材
		26コマ	基礎学修力	<力試し「聴く・話す」能力の確認>	・1つのテーマについて、賛成・反対に分け、討論する ・班ごとに結論を出し、発表する	オリジナル教材
第12回	6月30日(火)			スタートアップ研修へ振り替え		
第13回	7月7日(火)					
		27コマ	基礎人間力	自分や相手の大切さを知る	・ハラスメントについて学ぶ	自立と体験1(第10回目)
第14回	7月14日(火)					
		28コマ	基礎人間力	ルールとマナーを考える	・社会やキャンパス内などのマナーを考える	自立と体験1(第11回目)
第15回	7月21日(火)	29コマ	基礎学修力	セルフグロースシート(1)	・前期の振り返り ・大学生活の目的再設定	自立と体験1 (第13・14・15回を包含)
		30コマ	基礎学修力	セルフグロースシート(2)	・夏休みの過ごし方 ・セルフグロースシートの作成、プレゼンテーション	自立と体験1 (第13・14・15回を包含)

後期

【基礎学修力・人間力育成】、【イベント企画・実行】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト
第1回	9月15日(火)	31コマ	基礎人間力	全体ガイダンス アセスメントフィードバック	・前期振り返り、クラス再編成による自己紹介など ・アセスメント結果のFBと今後の目標設定	アセスメントテストの フィードバックシート
		32コマ	基礎人間力	演習(3)	「食育」に絡めた学食のメニュー企画(1) ・メニュー提案のためのプロジェクトチーム結成	オリジナル教材
第2回	9月29日(火)	33コマ	基礎人間力	演習(4)	「食育」に絡めた学食のメニュー企画(2) ・クラス代表決定コンペ	オリジナル教材
		34コマ	基礎学修力	日本語リテラシー(3) 「調査・分析」能力の育成	・夏季休業中にやってきた課題の提出と発表	文献は学生が選択 オリジナル教材
第3回	10月6日(火)	35コマ	基礎学修力	日本語リテラシー(4) 「調査・分析」能力の育成	・夏季休業中にやってきた課題の提出と発表	文献は学生が選択 オリジナル教材
		36コマ	基礎人間力	演習(5)	「食育」に絡めた学食のメニュー企画(3) ・シダックス担当者を招いたコンペ	オリジナル教材
第4回	10月13日(火)	37コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング(1)	・ロジカルシンキングとは？ ・テーマを決めてグループワーク①	オリジナルテキスト
		38コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング(2)	「ドーナツ店の売上を2倍に増やすには？」 ・模造紙の作成、クラス内プレゼンテーション	オリジナルテキスト
第5回	10月20日(火)	39コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング(3)	・テーマを決めてグループワーク②	オリジナルテキスト
		40コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング(4)	「いわき市の人口を5年後までに1万人増やすには？」 ・模造紙の作成、クラス内プレゼンテーション	オリジナルテキスト
第6回	10月27日(火)	41コマ	基礎学修力	ロジカルシンキング(5)	・クラス内発表 ・振り返り・FB	オリジナルテキスト
		42コマ	基礎人間力	ロジカルシンキング(6) テーマ別演習オリエンテーション	全体発表(AV教室) ・ローテーション授業の目的・内容理解	オリジナルテキスト

【専門課程入門】、【キャリア教育】、【目標設定】

講義数	実施時期	コマ数 カウント	学習タイプ	表題	内容	教材・テキスト			
第7回	11月10日(火)	43コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習(1)	テーマを決めてグループワーク	地域と社会 「いわき市について学ぶ」  少子高齢化・福祉 サンシャインマラソン等			
		44コマ			※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したものにて設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル				
第8回	11月17日(火)	45コマ			46コマ				
		47コマ			基礎学修力		メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習(2)	テーマを決めてグループワーク	国際コミュニケーション 「異文化交流とは」  異文化交流に 必要な考え方・方法等
48コマ	※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したものにて設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル								
第10回	12月1日(火)	49コマ	基礎学修力	メジャー・サブメジャー と関連した テーマ別演習(3)	テーマを決めてグループワーク	心理と人間行動 「実験→分析→仮説生成」  アクションスリップ 体験から実験立案・実施			
		50コマ			※4コマを1単元として3つの領域を学ぶ ※テーマをメジャー・サブメジャーと 関連したものにて設定し、 専門課程への足掛かりとする ※課題理解→仮説→検証→発表のサイクル ※各クラス1位の班は次週全体発表				
第11回	12月8日(火)	51コマ			基礎学修力		テーマ別演習「地域と社会」の発表	・全体発表(AV教室) ・テーマ別演習の振り返り	地域と社会 「いわき市について考えよう」
		52コマ						・「これからのいわき市を考える～大学生に求められる地域貢献」に関するゲスト講演と討論会	
第12回	12月15日(火)	53コマ	基礎学修力	「地域と社会」と関連した特別講演	・「仕事・働く」に関する映画を鑑賞して 自分にとっての「仕事・働くとは？」を考えてみる ※2年次キャリア教育への足掛かりとする	「仕事・働く」に 関連したDVD教材など			
		54コマ			セルフグロースシート(3)		・1年の振り返り	前期作成した セルフグロースシート	
第13回	12月22日(火)	55コマ	基礎学修力	セルフグロースシート(4)	・今後の意図的行動や学習のポイントを考える ・セルフグロースシートの作成	前期作成した セルフグロースシート			
		56コマ	基礎学修力						
第14回	1月12日(火)	57コマ	基礎人間力	「仕事・働く」を考える					
		58コマ	基礎人間力						
第15回	1月19日(火)	59コマ	基礎学修力						
		60コマ	基礎学修力						